

春色にわかには動きはじめた今日このごろですが皆様には日々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

4 年前 3.11 東日本大震災犠牲者への鎮魂の祈りと災害教訓を胸に刻みながら防災タイムズ第 22 号をお届けします。

### 1. 新年度の活動について

平成 26 年度の実績と経験を基礎に新年度の活動計画をすすめます。

○学区防災訓練 6 月 21 日(日) 平和が丘小学校 細案は後日提案されます。

○自主防災訓練の日程について

各自治会が行う自主防災訓練は、従来 9 月以降に行われてきましたが、訓練日の平準化を図るため 8 月以前にも実施日を設定したいと思えます。日程を組める自治会をお願いします。また、訓練内容に避難所運営訓練も考えられます。その他新年度の行事等については後日報告します。

### 2. めいとう総合見守り支援事業について 平成 27 年度は見送りの方向

前号でお知らせしました「めいとう総合見守り支援事業」は、実施にあたっては事業の目的が十分に達成できるように学区内の啓蒙と周到な準備が必要です。諸般の情勢に鑑みて当学区としては平成 28 年度実施の方向です。区としては最終的には全学区で実施という方針です。

総合見守り支援事業とは、災害時に備えて一人暮らしの高齢者の安全確認と救助を目的とした区政・民生・消防・防災の四者からなるネットワークです。

### 3. その他各種講演会等

○被災地支援講演会 ～陸前高田市の今を伝える～ 2 月 11 日(水) 中区役所ホール

ご存知のように名古屋市は岩手県陸前高田市の災害復興に全面的に協力しています。2 月 11 日(水)、中区役所ホールで今までの支援活動報告があり会場は多くの市民で埋まりました。

最初に、河村たかし市長から今回の支援は住民票の交付から学校施設の復旧にいたるまで名古屋市の総力をあげての支援活動であることが述べられ、次いで陸前高田市より仮設住宅の生活の様子や市復興の現状が報告されました。“奇跡の一本松”が災害のモニュメントとして注目された。

<陸前高田市の被害状況> 人口 24,246 死者 1,550 行方不明者 207(H26.12.31 現在) 計 1,757 人口の 7.25%の人が死亡又は行方不明、市庁舎全壊し行政機能が崩壊。

災害の検証から教訓として①自分の命は自分で守る、②自分の周囲でどのような災害が起こりうるかを考える、③避難は命を守る行為であるということが語られました。

また、名古屋市立菊井中学校生や県立愛知商業高校ユネスコクラブによる援助活動など中高生の交流も紹介され行政上に留まらない支援活動の広さを示しました。なお、両市は平成 26 年 10 月 26 日友好都市の協定を結びましたが、直近のマスコミ調査で陸前高田市は震災前比で人口-3,874 人、16.1%減少。市当局は復興完了時期を 2018~20 年度と答えています(3 月 6 日、9 日紙上)。

○減災テーマで講演 3月7日(土) 愛知東邦大学にて

名大 福和伸夫氏が講演。最初に会場の4階の窓から名東区一帯の地形と市街地を俯瞰(ふかん)しながら説明。現在の社会は安全性より経済中心の価値観で成り立ち動いているとされ、東京、大阪、名古屋三大都市を防災上の見地から比較。また、20年前と比較して現在の物流社会の高依存度に対する災害時の対応力等を警鐘され、さらに建築物の構造上の比較や災害史など学際的内容の濃いものでした。現在、自分の住んでいる所が以前はどんな地形や状態であったのか知ることが対策の第一歩かもしれません。

なおこのほど、名東区は学校法人東邦学園と住みよいまちづくりを目的に連携協力に関する協定を締結しました。

○めいとう福祉まつり 2015 2月22日(日) 障害者スポーツセンターにて

当日、会場はたくさんの人で大変な盛況でした。ステージでの演技をはじめ各ブースでは手話等の学び体験や模擬店などが並び、中でもバザーは品物の種類と量の多さに人の流れが途切れることがないほどでした。

平和が丘学区からも食器やタオル等約70点以上提供され(コミセン集約、直接区役所等に搬送された分を含まず)ご協力頂きました学区の皆様は民生児童委員協議会ともども厚く御礼申し上げます。



賑わうバザー会場

○通学路沿いの不備な箇所の修復行われる

昨年秋に実施した通学路の点検で住民から指摘された通学路脇の破損した縁石、ポール、道路上の小亀裂などが早速修復されより安全な通学路となりました。名東土木事務所をはじめ修復にご協力いただきました関係者の皆様にお礼申し上げます。

**◎防災豆知識 南海トラフ巨大地震** 静岡県沖の駿河湾から九州沖まで続く深さ4千メートルの海底のくぼみ(南海トラフ)でマグニチュード(M)7~8級の地震。国は東日本大震災後、最大規模M9.1の被害想定を発表。最悪20メートル以上の津波が8都県に押し寄せ死者32万3千と想定。津波火災270件(名大減災研)  
**<小ニュース>災害炊飯袋が好評。**高密度ポリエチレン製の縦30センチ、横10センチの筒状の袋に米1合と水を入れ輪ゴムで封をして20分煮るとご飯ができる。日赤愛知県支部が考案し東日本大震災後注目される。販売は丸栄化成と日本アサヒの2社。それぞれ2000袋、200袋単位で販売(日赤は販売扱わず)。

○災害時の備蓄メニュー 昨年、農水省が例示

農水省が昨年大規模災害時に一般家庭に必要な1週間分の食料の備蓄例を例示しました。

<主食>△水21リットル △米9食分(675グラム) △レトルトご飯、アルファ米7パック △食パン1食分  
△乾麺(うどん、そば、パスタ等)2食分 △即席麺、カップ麺1個 △シリアル類等1食分(50グラム)  
<主菜>△肉、魚、豆などの缶詰11缶 △レトルト食品7パック △豆腐2食 △乾物(煮干し等)適量  
△ロングライフ牛乳1本等。(賞味期限に気をつけましょう。NTTもタウンページで独自に掲載)

**<編集後記>** 昨年の12月末日、“隗(かい)より始めよ”で防災委員一同、避難所開設を想定して必要な器具や用具の扱い方などを実習しました。マンホール蓋の開閉や仮設トイレ、パーティションの組み立て方など実務を体験。一部、収納方法などで苦労しましたがよい勉強をしました。“備えあれば憂いなし”とは物心両面に通じる言葉だと実感したことでした(編集 高木)。